

My Polaris
戸田副院長の
ポラリス

ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき
Beating
Kashima
鹿島

意外?!

副院長 戸田 博敏

この原稿執筆中、思いつきで6月21日(日)、日の出を拝みに美保関の地蔵崎に行ってきました。たまたま、今年の(日本の)夏至の日でした。皆様、如何お過ごしでしょうか?早いもので、これからすでに、陽が延びていたのが、だんだん短くなってゆくフェーズに入りました。スマホで調べたところ、私にとって意外だったのは、日本では、日の出がもっとも早い日は、夏至より1週間ほど早く、日の入がもっとも遅い日は夏至より1週間ほど後だそうです。当日、松江の日の出予想時刻は4時53分。地蔵崎に到着したのは4時30分頃でしたが、意外にも、既に10台以上の車が停まっていた。何台か県外Noもありました。少し考えれば、不思議ではない、コロナの第一波は終わり、中国地方知事会から6月19日から5県内の観光を推奨するメッセージも出されていた様ですし、リピーターもおられたでしょう。大方の人がマスクを着けておられました。

ところで、マスクは何故着ける?というより、誰のために着ける?まだ、緊急事態宣言の出ている5月だったと思いますが、TVで若い人が「何故、出歩くんですか?」という質問に「マスク着けてれば大丈夫かなって」と答えているのを見ました。この「大丈夫」はマスクを着けている自分が大丈夫、マスクが自分を感染から護ってくれるというふうに聴こえました。それは全くないわけではありませんが、御存知の方も多いと思いますがN95マスクなど特殊なものを除いて、マスクを着けるのは自分を護るというより、自分の飛沫を周囲に拡げない、自分が感染している場合、他を感染させないという意味合いが大きい。これは飛沫の飛び散る様子をシミュレーションしたCGが繰り返し放映され一般市民にも知れ渡っていると思います。周囲を護れば、回り回って自分を護ることにつながる?!マスクは3つの密(密閉・密集・密接)を避けるには直接含まれていません。あくまで補助的手段でしょう。手洗いをする、ソーシャルディスタンスを守るなどと並行して行うことで効果が期待できると思います。ただこの若者たちを決して笑うことはできません。マスクを身に着けると、やはり自分を防護しているという感覚になりやすいと思います。私もそうでした(です?!).

慢性期病院の型を確立してきた鹿島病院。おかげさまでいいますか、ますます、忙しい日々です。時々病院ほぼ在宅の地域包括病床。医療依存度が高く施設、在宅が困難な患者さんのための療養病床。神経難病、人工呼吸器、現在19台、(過去最大30台稼働)を装着した患者さんを受け入れている特殊疾患病棟。リハビリに特化した回復期リハビリテーション病棟。訪問看護、通所リハビリを展開している在宅サービス部門。多分、意外ではなく地域どころか、医療関係者、当院の職員、もちろん、私もその一人です、にもまだまだ周知が進んでいないかもしれません。やはり、鹿島病院の得意とする多職種連携に磨きをかけ、地域にもっと発信する努力が必要なのでしょう。



病院機能 評価

慢性期・リハビリ病院 <3rdG:Ver2.0>の 認定を取得しました



看護部長 川谷 清美

当院は4回目となる病院機能評価を2020年1月22日、22日に受審しました。看護部の視点から感想を述べさせていただきます。

受審の目的は医療の一定の水準を満たしたと認められる「認定病院」となる。いわゆる日本医療機能評価機構からのお墨付きをいただくことですが、現状の病院機能を振り返り、課題を改善し、第三者の評価を受けて、更なる医療の質向上を目指し変化することだと思います。

受審準備の第一段階は、病院機能評価は4つの領域(第1領域:患者中心の医療の推進。第2、3領域:良質な医療の実践。第4領域:理念達成に向けた組織運営で構成)の評価項目を各部門で評価し、不足していることや対策が必要なことを確認しました。

次に看護部と医局との検討会を数回行い、問題が明確化されました。

看護部が中心となって実施する項目は「診療ケアにおける質と安全の確保」「チーム医療による医療・ケアの実践」です。看護職・介護職のケアの質の向上につながるの思いで取り組みました。看護部記録委員会・業務委員会・教育委員会が中心となり、看護基準や手順、看護記録のマニュアルの見直しからスタートしました。ケアを実践する時にそれらが本当に活かされているのか、考える良い機会になりました。看護実践の証明となる記録が不足している項目については、テンプレート機能などを活用し記録漏れがないよう改善しました。

その他の取り組みの一例として、終末期の患者さんのデスカンファレンスの基準を明文化し、基準に沿って多職種で振り返りを行い、患者・家族への関りについて共有しました。

準備の最終段階として、各病棟模擬ケアプロセスを、職員が診療管理と看護管理のサーベイヤー役となり、医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、管理栄養士、セラピスト、歯科衛生士、医療相談員と関わる全ての職種が参加して数回行いました。私もサーベイヤー役で参加しましたが、回数を重ねるごとにメンバーの受け答えが的確になり、それぞれの立場で患者家族の視点で関わっていることを実感しました。(ケアプロセスとは、入院から退院までの診療・看護を遂行していく過程において診療と看護間やその他チームとの間における業務の伝達プロセスや、チーム医療の実態のことです。)

当日の訪問審査は、診療管理と看護管理のサーベイヤーがそれぞれの部門を訪問して審査が行われました。模擬ケアプロセスの成果があったのかどうかはわかりませんが、それぞれの職種が専門性を発揮できたと感じています。

受審後の感想は「無事に終わりホッとしました。職員の皆さんお疲れ様でした。」が一番の思いでした。他職種連携なしでは患者の支援はできないこと。記録でしか実践の証明はできないことを実感しました。

患者・家族の視点に立った医療にはゴールはないと痛感しながら、今後も改善が必要な項目は検討し、患者中心の医療を目指していきたいと思っています。

新型コロナウイルス 予防は

新型コロナウイルス感染拡大の報道が連日されています。世界各国で著名人が罹患したというニュースもあり、その衝撃はとても大きく。不安を抱いている人も多いと思います。

手洗い・睡眠・食事・運動・体調管理、そして笑顔 😊

ウイルスを寄せつけないように免疫力を高めましょう

免疫力は、食事（腸内環境を整えること）、十分な睡眠、体温を上げる運動（ウォーキングと筋トレ）で維持、向上が可能です。

運動するときのポイント

- 人混みを避けて散歩する
- 1週間単位で、1日の平均歩数8,000歩以上を目指す
- 筋トレも自宅や職場で週に3日、1回2～3種目行くと足腰が弱りにくくなります



食事のポイント



- 腸内環境を整えるのに効果のある発酵食品や食物繊維を意識してとる（免疫細胞の7割が腸内にあります）
- バランスに配慮した食事を心がける

体調管理

- 毎日検温をし、自分の体調管理をする
- 規則正しい生活をする

手洗いのポイント



- 基本は流水と石鹸による手洗いでウイルスを洗い流す
- 手指消毒用アルコールによる消毒

笑顔



- 笑いでNK細胞が増え、免疫力が向上します
- ※NK細胞：ナチュラルキラー細胞、生まれながらに備えている体の防衛機構

さいごに 消毒液の作り方



ドアノブや手すりなどの消毒には、塩素系漂白剤が有効とされています。厚生労働省のホームページでは次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする市販製品を使った、0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方の例が紹介されています。

メーカー	商品名	作り方の例
花王	ハイター／キッチンハイター	水1Lに本商品25mL（商品付属のキャップ1杯）
カネヨ石鹸	カネヨブリーチ／カネヨキッチンブリーチ	水1Lに本商品10mL（商品付属のキャップ1／2杯）
ミツエイ	ブリーチ／キッチンブリーチ	水1Lに本商品10mL（商品付属のキャップ1／3杯）

ドアノブや手すりのほか、テーブルや照明スイッチ、水道の蛇口、壁、床など手がよく触れる場所の消毒ができます。金属は腐食する場合がありますので、消毒後に必ず水拭きを行ってください。



令和2年度

新人看護研修



吸引

新人看護研修を実施しました

看護部 谷尻 健

新人研修では看護技術の「吸引」「静脈注射」「輸液ポンプの取り扱い」の3つについて講義を担当させていただきました。この3つの内容は、長期療養の患者さんに特に必要な看護技術です。安全に実施できるようになるために、どうすればわかりやすいか悩みながら資料作りや、講義の組み立てを考えました。今年は吸引モデルの模型を用いて吸引の実際により近い演習をしてもらい、静脈注射では腕の模型で演習をし、輸液ポンプの取り扱いでは、病棟で使用している輸液ポンプを操作してもらいました。

少しでも自信を付けて病棟で元気に働いてもらえるよう、願いながら講義を行いました。

新人看護師と一緒に学び、安全で安心できる楽しい職場になるよう今後も務めていきたいと思っています。



静脈注射準備

オムツ装着



新人研修に参加しました

看護部 田村 優衣

新人研修では、講義だけでなく、模型を用いての指導もしていただいています。患者様に初めて行う技術は不安もありますが、より実践

に近い形で研修を受けることによって自信をもって看護ケアを行うことができています。

少しずつ出来る事が増える一方、まだまだ覚える技術はたくさんあるので、新人研修で学んだ事を振り返りながら、正しい知識と技術を身につけていけるよう、日々努力していきたいです。



輸液ポンプの取り扱い

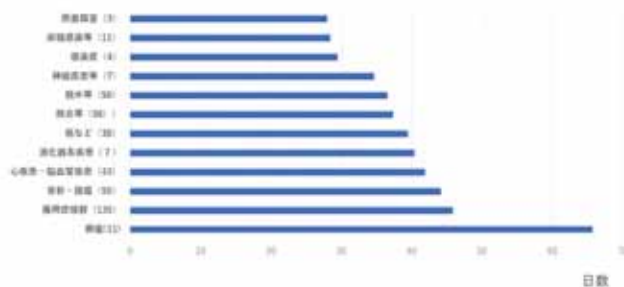
地域連携室便り 67

医療相談部 社会福祉士 小林 裕恵

前回の地域連携室便りでは鹿島病院の地域包括ケア病床に入院された患者さんの「入院時の状況」に焦点を置き、どのような患者を受け入れているかということについて紹介させていただきました。今回は「入院後の状況」に焦点を置き報告したいと思います。データは2017年10月1日～2019年9月30日に得られたもので、その間の入院患者数は449名、退院患者数は422名です。

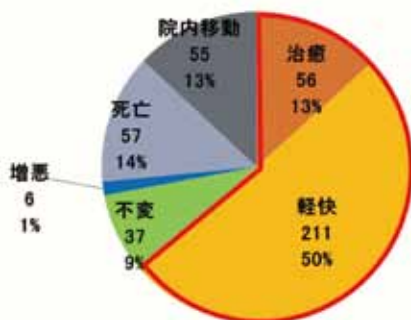
スライドは、包括ケア病床から退院した患者の疾病ごとの平均在院日数を示したものです。褥瘡がもっとも長く、廃用、骨折が続きます。

疾病と平均入院期間の関係 n=422



入院期間が終わると退院するわけですが、包括ケア病床の退院時の転帰を見たものがこのグラフです。治癒・軽快で全体の63%となっています。

退院時の転帰 n=422



入院元と退院先



グラフの上が入院元、下が退院先です。入院元は急性期病院がもっとも多く自宅、施設がそれに続きます。退院先は自宅が最も多く次に施設が続きます。鹿島病院の包括ケア病床は「在宅療養へつなぐ」という包括ケア病床の本来の役割を果たしていることがわかります。

退院先の推移 n=422



さて、最後のグラフです。これは退院時の退院先の移り変わりを3か月ごとにまとめて%で示したものです。これを見ると、この間、死亡の割合は10%強でほぼ一定しており、急性期病院への転院もほぼ一定で10%を切ります。鹿島病院の他病床への移動は初期には多かったのですが最近はずっと少なく10%を切ります。これらに対して、自宅への退院は初期には30%程度だったのに、今では50%を超えています。最近では自宅や施設への退院が70%程度になっています。

この退院先のグラフを見るだけでも、「在宅療養へ」という世の中の流れ中で、包括ケア病床もその役割を果たしていることがわかります。今後もこの病床を発展させるために、地域の在宅医、ケアマネジャー、施設等と連携を深めていくことが必要だと考えています。



鹿島病院通所リハビリやまゆり ギャラリー

コロナウイルス感染予防対策は長期戦になりそうですが、ご利用者さまにもご協力いただきながら営業を続けております。今回は、最近の通所リハビリの活動のようすをギャラリー風にお伝えいたします。

通所リハビリテーション 所長 板垣 陽介

リハビリ
コーナー



マスクをしながら
頑張ってます！



フロア活動
コーナー



手指練習、脳トレ、
創作などいろいろ
取り組んでいます！



体操コーナー



月替わりのメニューを提供しています!

お楽しみ会
コーナー

「箱の中身はなんだろう」「名前ビンゴ」盛り上がりました!



環境は変わっても、今までと変わらない活動の提供や、新しい企画を考えながら、人生の楽しみと感じられる時間を共有できるよう頑張っていきます。



マスクを寄付していただきました!

いつもありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大で誰もが混乱する中、医療従事者のみなさまのお陰で救われた命がたくさんあります。

心から感謝申し上げます。みなさまもお身体に充分お気をつけてこれからも頑張ってください。心から応援しています。

東洋羽毛中四国販売(株)島根営業所 青山 心耶



- ①部署・職種 ②趣味・特技は何ですか？
③好きなもの・好きなことを教えてください。
④一言ご挨拶をお願いします。

入職 50音順



足立 雅実

- ①診療部栄養課・調理員
②書道・小物作り
③花を植えること。花を見ることが大好きです。見ているだけで癒されます。
④病院給食は初めてで、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、少しでも慣れるよう努力していきたいと思っていますので、ご指導の程、よろしくお願い致します。



熊谷 愛美

- ①事務部医事課・事務職員
②ショッピング・釣り
③飼っているうさぎと遊ぶこと
④未経験での入社なのでご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、少しでも早く仕事に慣れ、力になれるようがんばりたいと思います。よろしくお願いします。



新宮 由紀恵

- ①看護部4階病棟・看護師
②カフェめぐり
③旅行
④一日も早く業務を覚えて頑張っていきたいと思っています。久しぶりの病院勤務なので、ご指導よろしくお願いします。



松本 裕子

- ①看護部看護部4階病棟・看護師
②ガーデニング
③そば・めん類の食べ歩き
④育児のため4年ぶりの仕事となりますので、仕事に慣れるのに時間を要すると思いますが、日々学ぶ姿勢を忘れずに日々の業務に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



吉岡 吾朗

- ①リハビリテーション部リハビリテーション科言語聴覚士
②ロードバイク・マラソン（サブ5）
③旅行
④これまで病院や介護老人保健施設等で勤務してまいりましたが、未経験であった回復期でのリハビリ業務を経験したく、入職を決めました。不束者ではありますが、何卒、宜しくお願いいたします。

退職

佐伯 満(看護部)
池淵 律子(看護部)
原田健太郎(看護部)
田中 春香(看護部)
福村 智之(看護部)
佐藤 嘉一(看護部)
太田 静子(在宅サービス部訪問看護)
千葉 貴子(在宅サービス部訪問看護)
可知 秀樹(リハビリテーション部リハビリテーション科)



職員数

2.7.1現在

職 種	職員数(名)
医 師	6人
薬 剤 師	2人
P T	24人
O T	19人
S T	6人
看護 師（准看護 師）	91人
臨 床 検 査 技 師	2人
診 療 放 射 線 技 師	1人
M S W	6人
介 護 支 援 専 門 員	6人
介護福祉士（介護職員）	57人
歯 科 衛 生 士	2人
管理栄養士（栄養士）	4人
調 理 員	11人
事 務 職 員	21人
合 計	258人

公人会事業報告 (R2年4月～R2年6月)

※退院日は除く

鹿島病院 ①外来

診療日数64日	1日平均患者数
延べ外来患者数	969人 15.1人/日

②病棟 2F特殊疾患病棟

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	5,180人 56.9人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,679人 18.4人/日
特殊疾患対象延べ患者数	
①脊髄損傷等の重度障害	531人 5.8人/日
②重度意識障害	2,386人 26.2人/日
③神経難病	1,415人 15.5人/日
④筋ジストロフィー	78人 0.8人/日
3か月間の特殊疾患対象患者割合	83.6%

3F回復期リハ病棟

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,181人 45.9人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	99.7%
平均リハ提供単位数	5.8

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	121人 41.3%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		89.5%
直近6か月間の重症改善率		81.8%
直近6か月間のアウトカム実績指数		46.4点

4F療養病棟

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,419人 26.5人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	88.9%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合(4F全体)	86.0%

4F地域包括ケア病床

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,305人 25.3人/日
A・C項目患者の割合	24.2%
平均リハ提供単位数	2.9
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	79.3%
ショートステイ延利用者数	20人 0.2人/日

在宅サービス部

①通所リハビリ“やまゆり”

稼働日数78日	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,725人 34.9人/日
短期集中リハビリ実施数	500単位 6.4単位/日

②訪問リハビリ“つばさ”

稼働日数61日	1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	211人 3.5人/日
訪問リハビリ延べ単位数	455単位 7.5単位/日

③訪問看護“いつくしみ”

稼働日数61日	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	276人 4.5人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	570人 9.3人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	238人 3.9人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼働日数61日	月平均策定数
延べケアプラン策定数	427人 142人/月
延べ介護予防ケアプラン数	168人 56人/月





医療法人財団公仁会中期ビジョン2019

医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめとする医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

<ビジョン策定の主旨>

高齢化に伴う疾病の多様化・重度化さらにリハビリテーションの要求に応え、橋北地域における地域包括ケアシステムの中核病院として入院医療と在宅医療を継続的に提供するため、中期ビジョン2019を策定する。

<本計画の期間>

この計画は2019年4月から2022年3月までの3年間を期間とする。

1. 良質な回復期・慢性期医療

(1)回復期医療

回復期リハ病床を中心としたリハビリテーションの更なる充実に加え、地域包括ケア病床での短期リハビリテーションを組み合わせることにより地域の回復期医療を担う。

(2)慢性期医療

特殊疾患、医療療養病床で難病、医療依存度の高い患者への対応を行い、地域包括ケア病床で入院加療を必要とする高齢患者に準急性期医療を提供することにより地域の慢性期医療を担う。

(3)質の高いリハビリテーション

回復期リハ・地域包括ケア病床でのリハビリテーションを外来・通所・訪問のリハビリテーションに繋げていくことで、地域におけるリハビリテーションを総合的に行う。

(4)外来・訪問診療

入院診療を支えるため、外来のみならず訪問診療を訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で充実させる。

2. 在宅生活を支える医療・介護

(1)良質な在宅医療

患者にとって「安心な支える在宅医療」を促進するため、外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を一層進める。

(2)良質な在宅支援サービス

外来部門、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ならびに通所リハ、外来リハ、訪問リハが質・量ともに向上し、リハビリテーションを柱とした質の高い医療・看護を提供する。

3. 地域連携 及び 地域貢献

(1)病病連携、病診連携、地域（行政（県・市・保健・福祉・介護）、地区）連携

急性期病院や地域の診療所と継続的・定期的に意見交換会を実施するなど顔の見える連携の更なる強化を行う。また、行政との連携を深め、周辺地区事業にも積極的に関わる。

(2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種に対しての勉強会等を通じて、地域に積極的に知識を還元していく。

(3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い公仁会のブランド力を高める。

4. 医療安全・院内感染対策

(1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

(2)院内感染対策

院内感染が起こってからの対策のみならず「発生しないための対策」「予防策をいかに取るべきか」院内感染防止対策委員会の活動だけでなく日頃からの予防教育を継続する。

5. 医療サービスの質の改善

(1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動

日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価3rdGV2.0への参加が決定し2020年1月に更新受審する予定である。日頃の診療行為等の見直しを図り、医療サービスの質の向上に努める。

(2)臨床指標（Clinical Indicator）の活用

診療報酬体系がストラクチャー評価からアウトカム評価重視へ移行する過渡期の中で、当院のアウトカムである在宅患者受入れ率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、医療看護必要度、訪問診療回数などを院内外に積極的に発信していく。

(3)患者満足度向上の組織的取り組み

継続的なアンケート調査を行い患者ニーズの把握に各部署務め、満足度向上のため継続的に努力する。

(4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

6. 人材の確保と育成

(1)人材の確保

良質な医療・介護をより向上させる為、必要人材を適時適切に確保する。

（特に医師は現在の構成を顧みれば確保は急務である。また、薬剤師、看護職員、介護職員においても各々の自己研鑽だけでなく新たな人材の受入が必要である。）

(2)人材の育成

研修会、研究会への参加は今後も計画的・継続性をもって行い、各人の一層のレベルアップを行う。

(3)働き方改革への対応

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に沿った労働環境を整備し、働きやすい環境作り、離職防止の取組、キャリアアップサポート、福利厚生事業の充実など、魅力ある職場づくりを行う。

(4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やすような取組みを引き続き行う。

7. 新電子カルテシステムの検討

CIMA/LinkCare、医事システム Hope のハード更新を2022年に控え、今後の電子カルテシステムはどうあるべきか検討委員会を立上げて検討する。



第1弾

Q.おうち時間を どう過ごして いますか？

A

事務部 坂根 伸彦さん その1

撮りためた子供の動画を利用してyoutubeチャンネルを開設しました。



5kg背負って懸垂10回×5本



A

事務部 坂根 伸彦さん その2

通信講座でスポーツ栄養の勉強をしていました。カロリーを計算して、子供の栄養を考えて、毎週1週間分の献立を作成しました。自粛中の買い物は私の担当で、写真は、買ってきた材料をすぐ使えるように準備したものです。

A

医療相談部 小林 裕恵さん

「チュン チュン チチチ」



「デデー ポッポー」



「ホーケキョ」



庭に来る生き物たち。鳴き声に和まされています…。

「カークァー アホー」



「クワッ クワッ クワッ」



A

診療部 野田 以登子さん

庭で採れたすもものジャムとレアチーズケーキを作りました。



編集後記

今年は梅雨も長く、豪雨による被害もまた発生してしまいました。被害に遭

われた方々にはお見舞い申し上げます。

先日、しほねプレミアム飲食券を利用し、妻と近所のでんぱ屋、蕎麦屋、とんかつ屋など行きました。近場ほどいつか行けるという思いがあったため、なかなか足を運べていなかったのですが、もっと早くから行くべきだったと、猛省するほど美味でした。そしてどの店もコロナ対策を徹底されていました。遠出が出来ないからこそ、地域の行きそびれているお店へ足を運ぶことで、松江や山陰の良さを再発見してみたいかがでしょうか？



■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1

e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/

鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221

訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640

やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645

通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637

訪問リハビリテーション(つばさ) TEL・FAX(0852)82-2637

■印刷元 柏村印刷株式会社